

パウダーレスインキ「キレイナ」の実力 (広告)

14. 環境と速乾で「谷印刷所」

「地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、全組織を挙げて環境負荷の改善に努力します。」

これは、(株)谷印刷所(谷 健智社長、京都・西院、社員25人)の環境宣言の基本理念である。それは環境マネジメント活動の継続的改善や当社の活動や製品及びサービスに係わる環境関連の法的及びその他の要求事項の順守など5つの方針からなっている。

同社は環境の意識が高く、2009年には「KESステップ2」¹⁾(2015年9月更新、2018年8月期限)を取得している。これは、全国的にはあまり知られていないが、京都ではメジャーな規定である。

印刷物製造における環境対応は多数あり、同社も相当数の対応を実行してきた。そのような意識の中、スプレーパウダーの削減も取り組んでいる最中であった。パウダーは印刷物の仕上がりに影響するばかりではなく、作業環境にも影響を与える。「印刷品質への影響、工場内の飛散・堆積、人体への吸い込みなどを考えると、できれば使いたくないものですね。これまでの『印刷雑誌』のキレイナの記事を読みましたが、すべて記事のとおりだと思います」(谷社長)。

谷印刷所は、一般商業印刷を行っており、得意先や仕事内容は多岐にわたるが、行政・学校・自治体や寺社仏閣のパンフレット、カレンダーなどが多いようだ。プリプレスからポストプレスまで自社で行っており、断裁、折り、中綴じ、観音折り、などに対応している。印刷は、従来の油性イ

ンキを使用していた。社の環境方針からパウダーの削減努力をしていたが、自社での削減には限界を感じていた。

そんな中、パウダーレスインキ「ベストワンキレイナ」が発表され、2014年夏ごろから、すぐにテストに入った。そして1ヵ月程度で本稼働が始まった。

当初は不具合もあったようだが大きなトラブルはなく、メーカーも要望に応えるべく改良を進め、現在では菊全判4色機2台をキレイナ専用で使っている。「最初から100%問題ないというものはないだろう」(谷社長)との考えで使い始めた。

印刷機はこのほか菊全判表裏4色両面専用機、四六半裁判4色機もあるが、キレイナ以外のインキを使う印刷機は、色替えのある特色や上質紙などの仕事に使っている。

パウダーが良い場合も

スプレーパウダーだが、少量なら良い結果になることもあるようだ。折りをはじめとした後加工で、“パウダーがないと紙が滑らない”と、たまに紙



キレイナを使っている菊全判機の前で、左から谷健智社長、オペレータの林和樹氏、谷駿紀氏

工会社から言われることがある。また林 和樹オペレータによると、絵柄の場所に偏りがある紙面の場合、絵柄部分と絵柄がない部分で厚さに差が出てしまう。

しかし、パウダーを気持ち散布するだけで紙面全体に散布され、平滑になり、結果仕上り面の印刷がしやすいといった状況があるようだ。谷社長も、多いのは良くないが、仕事によってはある程度のパウダーが功を奏することがあるかもしれないと述べている。

環境負荷低減の消耗品

そうは言っても、谷印刷所は、キレイナの特長に満足し、開発コンセプトには共感している。インキの乾燥に紫外線(UV)や赤外線、温風(熱風)などの外的エネルギーを必要としない、また別途追加の装置を必要とせず既存設備で使用できるキレイナは、まさに環境意識にうってつけのインキかもしれない。

また、印刷の品質向上、効率改善、コスト削減は、すなわち環境対応にもつながる。たとえば、パウダーが減ることで、印刷品質向上につながり、印刷環境も改善される。ボタ落ちも減り、刷り直しもなくなる。さらに、キレイナは従来油性インキよりもセット乾燥が早くなっていることから、次工程へ短時間で渡すことができ、作業効率を上

げられるメリットもある。

同社の仕事としては、とくに納期が短いもの、すぐに仕上り面印刷に入らなければならないものなどに、威力を発揮しているようだ。

徐々にキレイナへ

機械周りが白くなくなった、掃除の回数・時間が減った、などの特長を本ページで紹介してきたが、谷印刷所でもその恩恵を享受している。前述の通りもともと同社の印刷に対する意識は高く、湿し水は切るもの、そうすればインキは過乳化せず薄盛りでも濃度が出て、パウダーも減らせられると考えていた。その意識の中で、環境対応という言葉とキレイナによるパウダーレス印刷が結びつき、よりパウダーを減らせると考えた。

100%キレイナに変えられるとは考えていないが、表裏4色両面専用機では、パウダーは片面4色機の2台分、あるいは3台分の量を散布していると言っても過言ではない。そのため、両面機でもキレイナ導入の検討を始めた。徐々にキレイナへ、という方針である。

谷印刷所は、新工場を建設中であり、印刷機を増設する。将来の環境や納期対応からLED-UV装置を後付け可能な機種を導入予定だが、まずはキレイナでの稼働を考えている。キレイナの使用がますます増える状況である。(つづく)

革新的なパウダーレスインキ「ベストワン KIRÉINA」誕生。

キレイナ印刷
キレイナ加工
キレイナ機械
キレイナ工場

BEST ONE
KIRÉINA

T&K TOKA®

株式会社 T&K TOKA <http://www.tk-toka.co.jp>
TEL 049-258-1611(代表) 埼玉県入間郡三芳町竹間沢283-1 〒354-8577

1) KES (Kyoto Environmental management system Standard) : (京都議定書の) 京都から発信された「環境マネジメントシステム」の規格。ISO 14001などはコストが問題となるが、中小企業のコスト負担などの軽減のため、京都内で非営利特定法人が認証している